

ウミガメに関する活動の記録

*北水 慶一

I. ウミガメ漂着の記録 (1994年～2001年)

1. はじめに

かつて相模湾沿岸は、アカウミガメの産卵が比較的良好に確認される場所であったと聞く。大磯町においても1960年代から1980年代において確認したという事例が聞かれる。町内における産卵の記録は1990年6月13日(当館記録)が最後であり、以降、話しとしてウミガメが上陸していた等の情報はあるものの卵を確認したケースは無い。しかしながら、当館においてもここ数年の間に5度、死体漂着を確認していることからアカウミガメは大磯町近海を回遊しているものと思われる。本報告では、1994年から2001年までの当館でのウミガメの漂着記録を紹介する。

2. 記録

本記録は、町民の方から大磯町生活環境課(現環境防災課)に通報があり、当館で記録、撮影をおこなったものである。ウミガメの同定は背甲の形状及び背甲鱗板の配列状態で確認した。1994年から2001年の確認漂着したウミガメはすべてアカウミガメであった。

(1) 1994年6月21日確認

大磯町西小磯海岸小磯幼稚園付近に漂着。腹部が上部となっており、直甲長、直甲幅は未計測。同日及び翌22日に記録撮影をおこない、郷土資料館職員が埋蔵した。



図1. 1994年6月21日に確認した個体

(*当館学芸員)

(2) 1994年8月26日確認

大磯町東町海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は87cmで直甲幅は56cmであった。

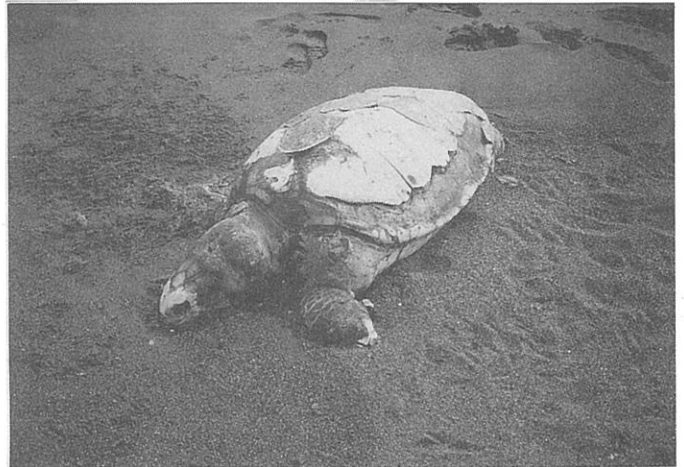


図2. 1994年8月26日に確認した個体

(3) 2001年5月22日確認

大磯町国府本郷海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は74cmで直甲幅は60cmであった。



図3. 2001年5月22日に確認した個体

(4) 2001年7月18日確認

大磯町西小磯海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は71cmで直甲幅は62cmであった。

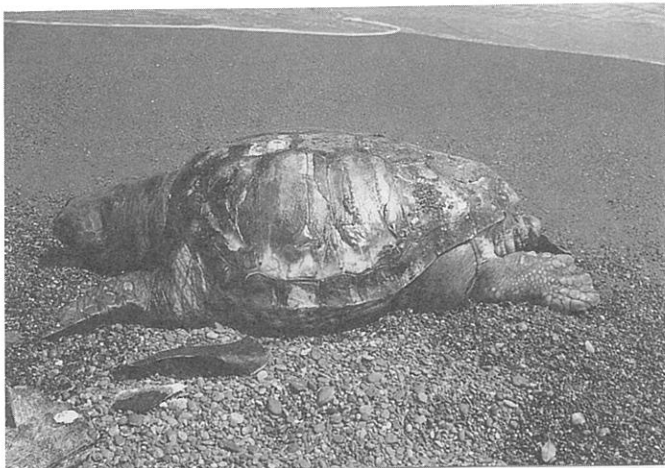


図4. 2001年7月18日に確認した個体

(5) 2001年7月18日確認

大磯町西小磯海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は74cmで直甲幅は59cmであった。

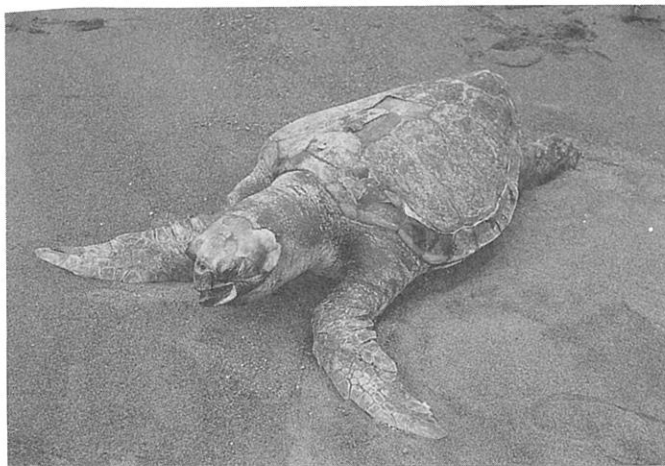


図5. 2001年7月18日に確認した個体

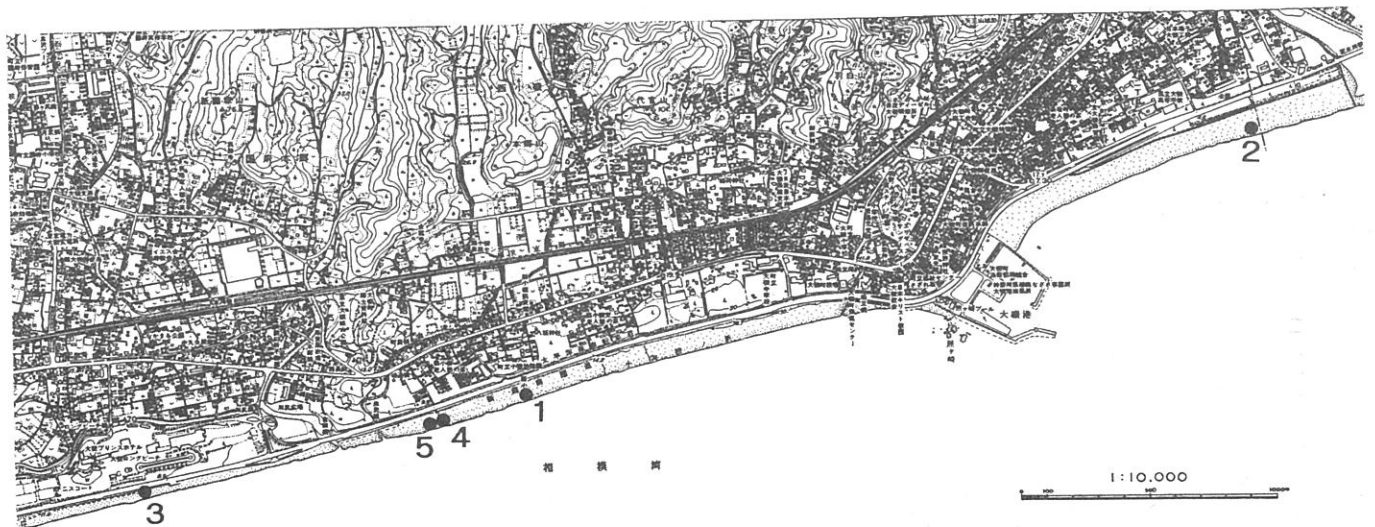


図6. 大磯町におけるウミガメの漂着の確認地点 (大磯町発行 10,000分の1地形図「大磯全図」を使用)

1. 1994年6月21日漂着 2. 1994年8月26日漂着 3. 2001年5月22日漂着
 4. 2001年7月18日漂着(直甲長71cmの個体) 5. 2001年7月18日漂着(直甲長74cmの個体)

まとめにかえて

当館で確認した5件の漂着記録を紹介したが、1994年から2001年の間では、他に1996年8月20日、大磯町国府本郷不動川河口漂着の記録(かながわ海岸美化財団記録;丸山ほか,1999)がある。ここ8年の間には合計6件の事例があり、多くは西小磯から国府本郷の海岸で確認されている(図6参照)。確認した個体は直甲長が71cmから87cmであり、成長段階としては産卵可能な成体で比較的若い個体が多い。

1994年には2体確認できたが、1995年から2000年の間では、1体しか確認されておらず、町内においてアカウミガメの漂着は近年、極めて稀なことであると思われた。しかしながら、2001年には3体の漂着を確認することができた。一時的なものであるのか、今後もその状況が継続するものであるかは、継続的に観察していくことが必要であると思われる。今後の状況については、追って報告をおこなう。

引用・参考文献

- 丸山一子・中村一恵(1999):神奈川県におけるアカウミガメの記録,神奈川県自然誌資料,(20),33-38.神奈川県立生命の星・地球博物館.
 内田至(1982):海ガメ学入門(Ⅰ),現生海ガメ類の形態と分類.海洋と生物,4(5):1-7.

II. 1993年漂着のアカウミガメの骨回収の記録

1. はじめに

当館では、現在2体のアカウミガメの全身骨格を所蔵している。1体は1988年7月6日に大磯町国府本郷大磯ロングビーチ付近海岸に漂着したものであり、もう1体は1993年6月15日に大磯町西小磯不動川河口付近に漂着したものである。大磯町環境防災課よりウミガメ漂着の連絡を受け、記録を取り、状況により骨採取のため砂浜にウミガメを埋めているが、先述の1988年漂着のアカウミガメの骨格標本は、漂着後すぐに剥製業者に骨格標本の作成を委託しており、実際に砂中から回収したことはなかった。ここでは、1993年漂着のアカウミガメの骨を回収した際の記録を紹介する。

2. アカウミガメの漂着と埋蔵

アカウミガメ死体埋蔵時の状況は当時の町史編さん係記録を参考にした。

同個体は1993年6月15日、大磯町西小磯不動川河口に漂着し、甲長87cm、甲幅66cm（丸山ほか、1999）。大磯町美化センター職員と当時、大磯町史執筆委員であった丸山一子氏立会いのもとで海岸清掃業者が埋蔵した。ウミガメは骨が分散せず、容易に回収できるよう全体を魚網で包んだ。埋蔵した位置が判断できるようにパワーショベルを用い、西湘バイパス沿いのテトラポット付近に移動。1m20cm程度の深さの穴を掘り、埋蔵したと記録されている。

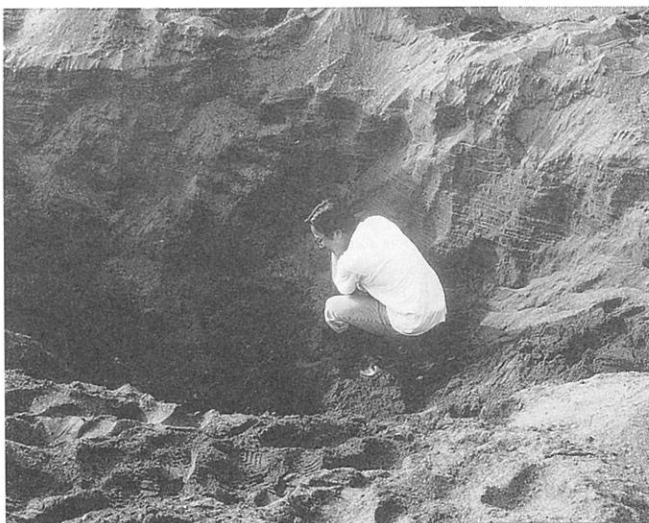


図1. 骨回収の作業の様子

3. 回収した骨と卵殻

1996年9月8日、丸山一子氏立会いのもと、博物館実習生とともに作業を進めた。深さ1m20cm程度の所に埋蔵したとのことであつたが、除砂作業は、困難を期し、深さ1m50cm程の所でようやく見つけ出すことができた。埋めてから約3年3ヵ月が経過しており、すでに肉片は見られなかった。骨のほか表皮の一部と卵殻105個を回収した（図2、図3）。回収時の骨の状況は、腐敗が進行しすぎて、極めてもろい状態であつた。卵殻は堆積する砂の重みからつぶれた状態にあり、所々開いている穴から串を通し、膨らますことで球形となり、卵殻と確認することができた。

4. 骨のクリーニング

回収後、砂を落とし乾燥させ、館内で保管していた。2000年9月に骨に含まれる塩分と脂の除去のため剥製業者にクリーニングを委託した。剥製業者の話では、骨組織の腐敗が進みすぎており、保存するうえで骨の強度が非常に弱くなっているとのことであつた。卵殻については、水洗後、乾燥させるのみとした。クリーニング後、アカウミガメ全身骨格の構成骨が把握できたが、前足、後足の一部が欠損していることが分かった。

5. まとめ

2001年にアカウミガメの漂着死体が3体確認されたが、今後も町内海岸においてウミガメの漂着があるものと思われる。漂着死体から得られる情報は多く、漂着したウミガメの内容物を調べることでウミガメの食性含めた生態を究明する材料となる。また本件のように漂着死体の骨を回収することで展示等の資料館資料として活用されていくことになる。継続的かつ綿密にウミガメの漂着を記録していくことでウミガメの生態はもちろんのこと、海域を含めた地域の環境を知ることにつながっていくことと思われる。

最後になつたが、数々の情報とご助言をいただいた丸山一子氏に感謝申し上げる。

引用・参考文献

丸山一子・中村一恵(1999)：神奈川県におけるアカウミガメの記録，神奈川県自然誌資料，(20)，33-38. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

作業協力者 [平成8年度博物館実習生] (敬称略)

大木佐知子、櫻田優子、桑島啓子、瀬木邦夫、西田貴世美、松本美樹、宮代将男、安井千栄子

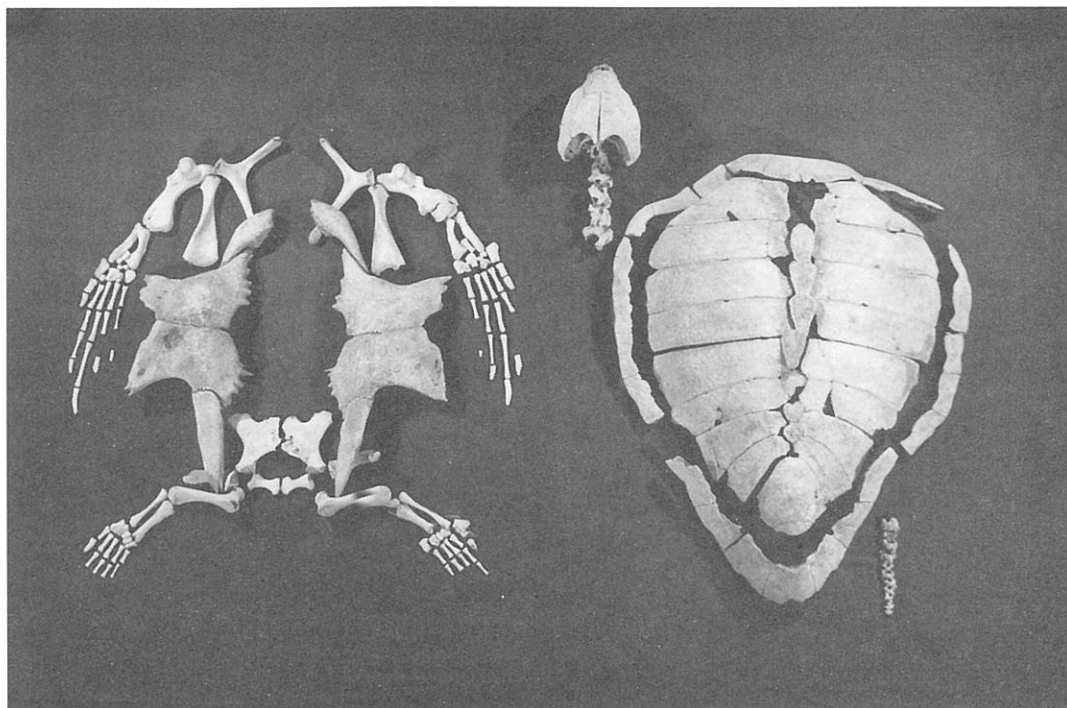


図2. 回収した全身の骨

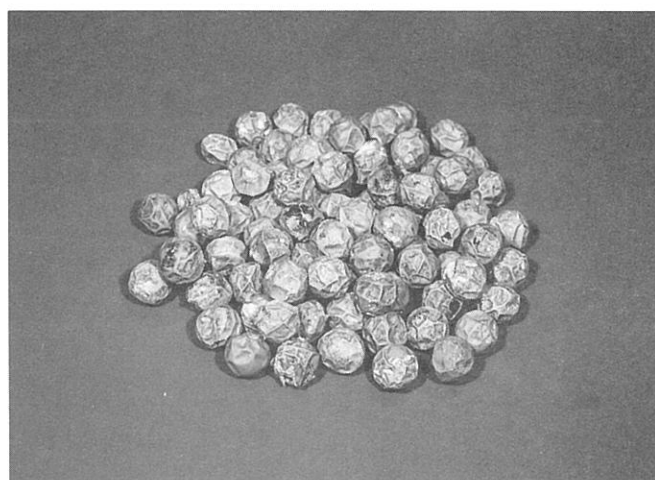


図3. 回収した卵殻